

研究紀要の掲載に寄せて

平成 26 年 11 月の「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）では、今の子どもたちが、近い将来、厳しい挑戦の時代を迎えることを予想しています。そのため、子どもたちには、新たな課題に直面したときに解決できる力や新たな価値を生み出していく力、未来を切り開いていく力を身に付けさせなければなりません。その方策として、具体的な学習・指導方法や学習評価、新たな教科・科目の在り方、カリキュラム・マネジメント等の様々な教育改革が求められています。

次々と直面する様々な教育課題にどう取り組むのか、教育の在り方が問われている中、本センターは、静岡県教育全体を視野に入れ、学校現場における具体的な課題やニーズに対応し、あらゆる分野の研究に取り組んできました。「研究が研修の礎である」という言葉のとおり、研究が研修に活かされることは、すなわち、子どもたちへの直接的な効果となることと考えました。そのため、研究成果を日々の実践で“使える”形にして、学校現場の教職員に伝えることが、研究活用につながり、センターとしての役割を果たすことになると捉えています。

本年度も、こうした考えの下、今日的な教育課題について実践的な研究を継続し、各分野における課題の解決に向けての提案を行ってきました。

本紀要は、本年度の最終年次の研究を中心にまとめ、本センターホームページ上に掲載しております。学校の直面する課題解決のために、本センターの研究を少しでも役立てていただければ幸いです。

結びに、研究に際して、御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 3 月

静岡県総合教育センター
所 長 杉本 寿久